



ニッポン ドクター和の 臨終区巻

『ちびまる子ちゃん』作者・さくももごんが亡くなられたのは2018年夏のこと。僕はそのとき、当連載でこのアニメのエンディング曲、さくらさんが作詞、桑田佳祐さんが作曲の『100万の幸せ!!』について触れました。

あれから5年以上の時が経ち、この国にいろんな辛いこと、悲しいことがあったけれど、ちびまる子ちゃんは今日も健在です。日本人が日曜の夜、平和な日々に感謝ができるひとときでしょう。小学校3年生のまる子は今日も、元気に家族と和気あいあいと暮らしています。それなのに……

まる子の声として知らない人はいなかったであろう、声優でシンガーソングライターのTARAKOさんが、3月4日に死去されました。享年63。死因は公表されていませんが所属事務所によれば、

348 声優 TARAKO



天国で天使になった

今年に入ってから体調を崩し、闘病しながらお仕事を続けていたといます。「最後まで病棟でも収録をしたいと意欲的で、大きな愛情をもって『ちびまる子ちゃん』に向き合っていました」と番組スタッフさん。

まる子の声を担当して、なんと34年間。大人の役ならいざ知ら

長尾和宏 (ながおかずひろ) 医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長としてリビング・ウィルの啓発を行う。映画『痛くない死に方』『けったいな町医者』をはじめ出版や配信などさまざまなメディアで長年の町医者経験を活かした医療情報を発信する傍ら、ときどき音楽ライブも。

ず、小学生の女の子の役を、20代から60代までずっとやり続けるというのは、並大抵の努力ではなかったはず。病名や死因を明かさなかったのも、もしかしたら「まる子」のイメージをTARAKOさんが考慮してのことだったのかも知れません。

昨今は、死因や病名を明かさないう計報が増えています。コロナ以降にその傾向が増えました。闘病の様子を伝えるのも伝えられないのも、まったくもって本人の自由。伝えることで、頑張ろうと力が湧く人もいられるでしょうし、同情をされたり気を遣われるのは嫌だとい

う人もいて当然です。TARAKOさんは、2021年にあるインタビューで「死」についてこんなふうに語っています。

〈自分が死ぬことについては、気がついたら、怖くなくなっていました。今、こうやって息をして、ごはんを食べたり、みんなとおしゃべりしたりといったことが全部なくなって、真っ暗な世界になってしまつと考えると、昔は「死」が怖くて仕方なかったんですけど、今は怖くないんです。天国に行けば、両親や、愛犬の「ももじ」、愛猫の「みかん」に再会できますし、天使になった友人たちにも会えますから〉(日々摘花 第17回より)

大切な人の死は怖いけれど、自分の死はさほど怖くない……この気持ちにはよくわかります。先に逝った命を「天使になった」と表現していたTARAKOさんも今、天使になりました。3月10日の『ちびまる子ちゃん』では久しぶりに『100万の幸せ!!』が流れました。天使の微笑みとともに。